

2022年度 学校評価報告書

2023年 5月 10日

学校法人 北海道カトリック学園 北見藤高等学校

1 2022年度の重点

教育目標：キリスト教の「愛の精神」に基づき、個々の能力を引き上げ、「心」を育てる	
①生徒の定員確保	入学者140名の確保を目標とする
②共学化の検証	過去の取り組みを基に、未来の計画をたてる
③高い進路実現	一人一人の学習支援計画をたて、個々の学力を伸ばす
④優れた教養と品格のある 人材の育成	建学の精神にもとづき、マナーやコミュニケーション力を定着・向上させる
⑤心の教育と教育支援体制の充実	生徒の自己肯定感を高め、自分と他者を愛する心を育て、安心して楽しい学校環境をつくる
⑥カトリック校教職員としての意識と 資質の向上	チャプレンと連携して、カトリック校で働く教職員としての意識を向上する
⑦カトリック教会との連携	教会と連携し、学校行事や教会行事に互いに参加・協力する
⑧危機管理体制の整備	生徒が安心出来るように、危険に対応した体制を整備する
⑨地域との連携と支援	地域への貢献や人材的支援をし、地域の学校としての理解を深める

2 2022年度の目標

- 文武不岐…文武が互いに相乗効果をもたらす学校づくり。
- 「伝える」を「伝わる」に…伝えて終わりせず、双方向に「伝わる」コミュニケーションを心がける。
- 目標を見える化し、迅速に全力で…目標を明確にして取り組み、評価を改善に活かす。

3 評価方法

評価方法は、次のとおり4段階とする。

- A 十分に達成されている (3.5～) B おおむね達成されている (3.0～)
C 達成とするには成果が不十分である (2.0～) D 取り組みの成果がまったくみられない (1.0～)

4 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策（()内は前年度）

評価項目	達成状況	○自己評価/◎改善方策	
建学の精神・ 教育目標	1 建学の精神と校訓は、今も引き継がれている。	3.00 (2.94) B	○建学の精神及び保護者や地域のニーズ等を踏まえた教育目標が設定され、教育活動に反映されていると評価できる。
	2 本校の教育目標は、生徒の実態、保護者・地域の要望を踏まえたものになっている。		
	3 「学校教育目標を具現化する」という意識の下で日常の教育活動が行われている。	◎今後も教育目標が、建学の精神はもとより、地域や保護者のニーズ等を踏まえたものとなるよう不断の見直しを行う。	
	4 学校教育目標に直結した教育課程を編成している。		

教育課程・ 学習指導	5 生徒の実態に対応した教育課程になっている。	2.93 (281) C	<p>○6「生徒の実態に即し、学力が向上するような教科指導」及び8「教科指導における学年や教科部会等の連携・協力」について概ね達成されている。</p> <p>◎8「教科指導における学年や教科部会等の連携・協力」については、保護者アンケートの結果が3年連続で下降しており、教科指導のあり方について教員と保護者の意識の乖離がある。については、今後、教育課程及び評価方法の見直しを図り、研修により教科指導の改善を図る必要がある。</p>
	6 生徒の実態に即し、学力が向上するような教科指導をしている。		
	7 生徒の関心や意欲を高める授業や教科指導の工夫がなされている。		
	8 教科指導において、学年や教科部会等の連携・協力が行われている。		
	9 評価基準・評価方法は生徒の学習状況を適切・客観的に評価するものになっている。		
進路指導	11 生徒の適性や希望を踏まえた適切な進路指導が行われている。	3.00 (287) B	<p>○11「生徒の適性や希望を踏まえた適切な進路指導が行われている」、及び12「進路に関する情報や資料が効果的に活用され、全校的な共通理解・協力が図られている」について概ね適切に取り組まれていると評価できる。</p> <p>◎進路指導に関する保護者からの高い評価に安住せず、ミスマッチの予防など進学後、就職後に求められる力をも見通した指導の一層の充実を図る必要がある。</p>
	12 進路に関する情報や資料が効果的に活用され、全校的な共通理解・協力が図られている。		
	22 学年毎に系統的・計画的な進路指導が行われている。		
生徒指導	10 HR活動が生徒を健全な社会人として育成するよう行われている。	2.84 (262) C	<p>○17「心のふれあいを大切にし、いじめのサインや生徒の悩みの相談に積極的に対応している」、及び18「不登校などの生徒の変化に適切に対応している」、並びに20「部(局)活動、各種の対外的な活動等が活発に行われている」など、不登校傾向のある生徒への対応、教育相談活動及び部活動については概ね良好な達成状況である。一方、挨拶や基本的生活習慣、規範意識の高揚については及び校内の協同体制については、自己評価が比較的低く、課題がみられる。</p> <p>◎部活動、いじめの未然防止及び不登校等の取組は継続し、さらに充実を図る。自己評価の低かった「挨拶や基本的生活習慣、規範意識の高揚」及び「教職員間の共通理解や協力」については、課題と捉え、生徒指導部と</p>
	13 挨拶や身だしなみ指導により基本的生活習慣の確立、規範意識の高揚を図っている。		
	14 生徒会活動を通して自主独立の精神を養うとともに北見藤の生徒としての自覚や連帯感を育てている。		
	15 生徒会行事のねらいを全教職員が理解し、積極的に生徒の活動に関わっている。		
	16 生徒指導に関して教職員間の共通理解や協力が図られている。		
	17 心のふれあいを大切にし、いじめのサインや生徒の悩みの相談に積極的に対応している。		
	18 不登校などの生徒の変化に適切に対応している。		

	20 部（局）活動、各種の対外的な活動等が活発に行われている。		学年団の双方が連携し、改善に取り組む必要がある。
	21 HR担任と教科担任、部活動顧問が適宜連携し生徒指導を進めている。		
学校運営	23 担任と副担任の連携の下、学年が組織的に運営されている。	284 (284)	<p>○学年指導及び研修については概ね良好な達成状況と評価できる。「危機管理対応」については自己評価が比較的低く、保護者の評価との間に乖離がある。</p> <p>◎学年指導及び研修については、これまでどおり継続し、さらに充実を図る。</p> <p>・自己評価の低かった「危機管理対応」については、「危機が去った後のふり返し」と「次回への備え」を習慣化するなど、改善につながる体制を構築する必要がある。</p> <p>・危機の例： ア気象災害、交通障害、 イ伝染病、急病・救急搬送、 ウその他(不審者侵入、ミサイル)</p>
	24 各分掌は、必要に応じて相互に連携を図りながら課題解決に取り組んでいる。	C	
	25 前年度の反省に基づき、各分掌や委員会等の活動計画が次年度にの反省を生かされている。		
	26 限られた時間の中で研修（全体、教科、個人等）が積極的に進められている。		
	27 危機管理意識を高く持ち、不測の事態に適切かつ組織的に対応している。		
保護者・地域住民との連携	28 生徒指導について、家庭との連携や関係機関との連携が図られている。	292 (292)	<p>○コロナ禍で低調だったPTA活動を除き、概ね良好な達成状況と自己評価できる。</p> <p>◎今後も生徒、保護者、地域社会の期待に応えられる学校づくりをめざし、教育活動全般について不断の見直しを行う。</p>
	29 進路指導について、保護者の理解、関係機関との連携が図られている。	C	
	30 学校の方針や活動が保護者・地域に知らされ、理解されている。		
	31 生徒、保護者、地域社会の期待に応えられる学校づくりに取り組んでいる。		
	32 PTA活動が充実した活動になるよう努めている。		
	33 家庭訪問、懇談、各種通信等により家庭との連携が図られ、協力が得られている。		
教育環境整備	19 校内の安全確保のため、施設設備の維持・管理の取組が適切に行われている。	287 (280)	<p>○校内環境の維持・向上については、自己評価、保護者とも高評価である。</p> <p>・35「働き方改革」の取組については、さらに改善が必要である。</p> <p>◎「働き方改革」の取組については、個人に負担が集中するあり方を改め、組織的な対応を工夫して改善する必要がある。</p>
	34 教材器具をはじめ、各種備品の整備・保管が適切に行われている。	C	
	35 本校には、仕事の事を含め管理職、同僚教職員に相談できる環境がある。		

総合評価	総合的な評価についてあてはまるものを選んでください。	290 (290) C	<p>○共学化から4年経過し、男女が共に2回目の卒業を迎えた。部活動において男女相互の刺激があり、全国・全道大会に進出する生徒が出るなど、予算を圧迫するほどの勢いが見られた。</p> <p>・一方、コロナ禍第7波、8波の猛威により、今年度もマスク、黙食、密回避など制限が多い年となった。生徒間、生徒と教職員間、教職員間のコミュニケーションも希薄化したか、保健室、ヴェリタス教室を利用する生徒が増加した。</p> <p>・教育活動が停滞しないよう、校内外の連携を踏まえ、工夫しながら学校経営に取り組んできた。</p> <p>◎今後はアフターコロナの教育活動が期待される。生徒会、部活動、PTAなど様々な取組が再開される。再開にあたり、単に数年前に戻ることとせず、生徒、教職員とも取組に改善を加え、新しい北見藤高校をデザインする気持ちが必要である。</p> <p>・「働き方改革」、「探究活動」、「評価の改善」、「部活動改革」など、新しい課題の解決に積極的に取り組む必要がある。</p>
公表方法	学校ホームページ		

5 添付資料

- (1) 2022年度 学校関係者評価（保護者）
- (2) 2022年度 第三者評価（学校評議員）

2022年度 学校関係者評価

2023年3月28日

学校法人北海道カトリック学園 北見藤高等学校

このことについて、次のとおり報告します。

1 評価方法

評価方法は、次のとおり4段階とする。			
A	十分に達成されていると評価できる。	B	おおむね達成されていると評価できる。
C	物足りなく不十分な達成状況である。	D	まったく評価できない達成状況である。

2

分野	自己評価項目				自己評価に対する評価		年度
	1	2	3	計			
教育目標・教育課程等	1	依頼者数	1学年関係者 87 人	2学年関係者 79 人	3学年関係者 60 人	計 226 人	22
	2	本校の学校教育目標を知っている。	C			2.8	21
						2.9	
						3.1	20
	3	本校の学校教育目標は、生徒の実態、保護者・地域の要望を踏まえたものになっている。	B			3.0	
						3.0	
						2.9	
	4	教育活動の内容や取組の状況が伝わっている。	C			2.9	
						3.0	
						2.9	
	5	生徒一人ひとりを大切にしたいきめ細やかな教育活動が行われている。	B			3.0	
					3.1		
					3.0		
6	本校の教育課程（カリキュラム＝3年間の学習の全体像）を理解している。	C			2.9		
					2.9		
					2.9		
学習指導	7	生徒の実態に即し、学力が向上するよう指導が行われている。	B			3.0	
						3.0	
						3.1	
8	生徒の関心や意欲を高める授業や教科指導上の工夫がなされている。	C			2.9		
					3.0		
					3.1		
生徒指導	9	生徒会活動を通して自主独立の精神を養うとともに北見藤の生徒としての自覚や連帯感を育てている。	B			3.0	
						3.0	
						3.0	
	10	部（局）活動、各種の対外的な活動等が活発に行われている。	B			3.1	
						3.1	
					3.2		
11	挨拶や身だしなみ指導など基本的な生活習慣が身につくよう指導が行われている。	B			3.0		
					3.1		
					3.1		

生徒指導	12	心のふれあいを大切にし、いじめのサインや生徒の悩みの相談に積極的に対応している。	B	3.0
				3.0
				3.1
	13	不登校などの生徒の変化に適切に対応している。	B	3.0
				3.0
				3.0
	14	生徒指導について、家庭との連携や関係機関との連携が図られている。	B	3.0
				3.1
				3.0
	19	生徒の安全や健康に関する指導が適切に行われている。	B	3.1
				3.2
				3.2
進路指導	15	生徒の適性や希望を踏まえた適切な進路指導が行われている。	B	3.0
				3.2
				3.2
	16	進路に関する情報や資料が効果的に活用され、全校的な共通理解・協力が図られている。	B	3.0
				3.1
				3.0
17	進路指導は、保護者の理解や関係機関との連携が図られている。	B	3.0	
			3.0	
			3.1	
学校運営	20	危機管理意識を持ち、不測の事態に適切かつ組織的に対応している。（例：コロナ、気象災害、ミサイルなど）	B	3.1
				3.0
				3.1
	21	校地や校舎内の環境整備（校内外の清掃活動）が行き届いている。	B	3.3
				3.3
				3.3
18	家庭訪問、懇談、各種通信等により家庭と学校の連携が図られる等、協力関係がある。	B	3.0	
			2.9	
			3.0	
保護者・地域との連携	22	外来者に対する教職員の接遇マナー（面談、電話対応等）は良いと感じる。	B	3.4
				3.4
				3.4
	23	生徒、保護者、地域社会の期待に応えられる学校づくりに取り組んでいる。	B	3.1
				3.2
				3.2
24	PTA活動は（コロナ禍だが広報、研修など）充実している。	B	3.1	
			3.0	
			3.0	
総合評価	25	北見藤高校の教職員には、熱意を感じる。	B	3.1
				3.1
				3.2
	26	お子さんを本校に入学させて良かった。	B	3.4
				3.4

○2022年度 北見藤高等学校 第三者評価

評価者

4名 内訳：本校支援組織代表
同窓会役員、教員OB等

分野	No.	質問	十分	おおむね	不十分	まったく	無回答	評価点	達成状況
教育目標	1	学校の教育目標は、生徒の実態や保護者・地域の方々の願いを踏まえたものになっているか。	1 25%	2 50%	1 25%	0 0%	0 0%	3.00	B
	2	日常の教育活動は、教育目標や経営方針を反映したのものになっているか。	1 25%	2 50%	1 25%	0 0%	0 0%	3.00	B
学習指導	3	教育目標ならびに教育目的に直結した教育課程を編成しているか。	2 50%	1 25%	1 25%	0 0%	0 0%	3.25	B
	4	生徒の関心や意欲を高め、個々に応じた指導を行っているか。	2 50%	1 25%	1 25%	0 0%	0 0%	3.25	B
生徒指導	5	挨拶や身だしなみなど、高校生としての基本的な生活習慣が身に付くよう継続的指導を行っているか。	0 0%	3 75%	1 25%	0 0%	0 0%	2.75	C
自由記述 ・取り組んでいる方向性は間違っていないので、自信を持って様々な取組を進めて欲しい。 ・北見藤が特別ということではないが、コロナや社会のストレスを受けて不登校や体調不良を訴える生徒が増えている。そうした状況に丁寧に対応いただいているので、大変とは思いますがそれを継続して欲しい。									
進路指導特別活動	6	進学・就職等、生徒一人ひとりの進路実現のために、十分な取り組みが行われているか。	2 50%	1 25%	1 25%	0 0%	0 0%	3.25	B
	7	生徒が学園祭や体育祭、追悼式やクリスマス会などの行事に、主体的・積極的に取り組んでいるか。	1 25%	1 25%	2 50%	0 0%	0 0%	2.75	C
その他	8	学校の教育内容について、保護者や地域へ積極的に情報発信しているか。	0 0%	2 50%	2 50%	0 0%	0 0%	2.50	C
	9	PTA活動に積極的に取り組み、学校の説明責任を十分に果たしているか。	0 0%	2 50%	2 50%	0 0%	0 0%	2.50	C
自由記述 ・取り組んでいる方向性は間違っていないので、自信を持って様々な取組を進めて欲しい。 ・北見藤が特別ということではないが、コロナや社会のストレスを受けて不登校や体調不良を訴える生徒が増えている。そうした状況に丁寧に対応いただいているので、大変とは思いますがそれを継続して欲しい。									
総合評価	10	本校の教育活動は、総合的に見て成果が十分に上がっているか。	1 25%	2 50%	1 25%	0 0%	0 0%	3.00	B
自由記述 ・私立高校としての特色を最大限に引き出して下さい。 ・コロナ禍を過ぎて、本年からまた十分に藤の教育力を発揮できる状況になることを期待します。 ・コロナ禍にPTA活動が制限されたことは会長としても残念でした。今後の活動に期待しております。可能な限り協力いたします。									